

Ⅲ. 公園・遊歩道活用プロジェクトについて (愛宕・貝取・豊ヶ丘地区等まちづくり計画)

1. 公園・遊歩道活用プロジェクトの概要

【基本方針】

地域の魅力である緑豊かな遊歩道や公園の更なる活用を図るため、プレイスメイキングなどにより地域ニーズに対応した空間のあり方の検討をすすめ、健幸まちづくりの実現に資する快適で安全・安心な、地域住民の憩いの場となる屋外環境の創出を目指します。

【プロジェクトの段階的戦略】

将来的な公園や遊歩道の整備を見据え、地域住民が使いやすく、快適で安全・安心な屋外環境の形成にむけ、プレイスメイキングなどを通じて新たな場の使い方を検証し、ニーズに応じた将来的なハード整備を検討・実施します。

短

老朽化が進む公園や遊歩道の課題解決にあたり、多世代が快適に利用できる公園や遊歩道の新しい場の使い方について、早期にプレイスメイキングなどを通じて実験

長

利用者ニーズを踏まえ、新たな使い方を促進するルールづくりや、将来的な公園・遊歩道の改修やバリアフリー化なども含めたハード整備を検討・実施

2040 年代

短期的な実践メニューイメージ

①公園のサードプレイス化実証実験

Ex) 可動式イスの設置などによる公園における新たな居場所づくりの実証実験。



事例：多摩中央公園パークライフショー

②遊歩道・公園等を活用したマルシェの実施

Ex) 公園の賑わいを通りに表出し、エリアの一体的な賑わいを創出するイベントなどの実施。



事例：永山団地イベント

③柔軟な公園活用に向けた規制緩和などの実証

Ex) 焚き木など従来公園で規制されている活用について利用ニーズなどを実証実験で把握する。

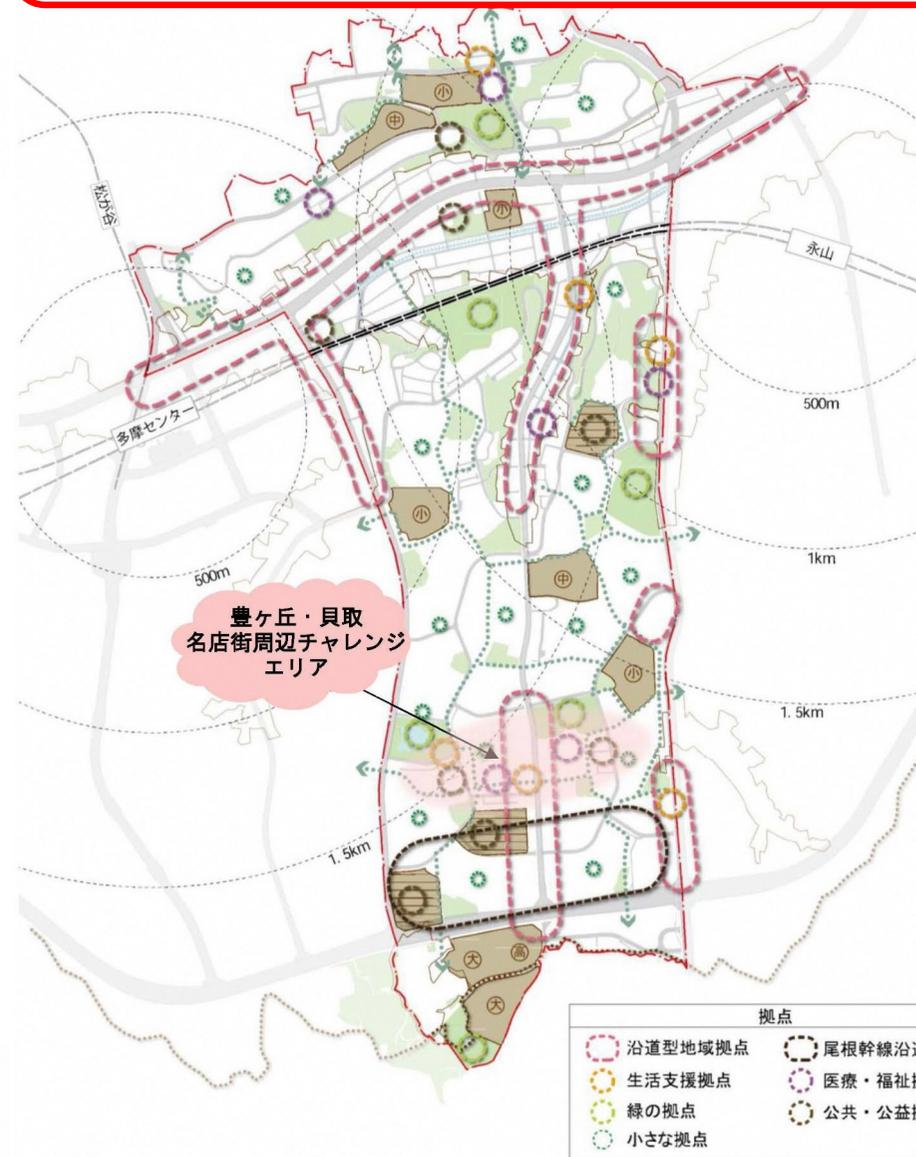


事例：多摩中央公園パークライフショー

【プロジェクトの推進に向けて】

公園や遊歩道の柔軟な活用に向けては、市市内での検討を進めるとともに、具体的な取組内容については、地域や事業者などと連携しながら、実施にむけた体制づくりを早期に進めます。

まちづくりの実現にむけて**豊ヶ丘・貝取名店街周辺を「チャレンジエリア」とし、実証実験を市民とともに進めていくこと**としています。



2. 実施に向けた体制づくり

【J Smile多摩八角堂】

- ・地域の魅力を再発見・再発信しながら、新たなコミュニティの場が創出されるための活動拠点として、地元民間事業者が同社の遊休施設を活用し、2016年9月にオープン。
- ・講座やワークショップ、ヨガ等のイベントを日々開催するなど、**地域の活動者の活動拠点**となっている。
- ・また、地域の活動者などと共にランタンフェスなどのイベントも主催しており、**多様な繋がり**がある。

- ・来年度以降の社会実験の実施に向けて、**今年度はランタンフェス関係者にヒアリング**を実施。
- ・繋がりを広げながら、**社会実験を実施していく**予定。



3. チャレンジエリアで目指す姿のイメージ

●周辺住民や散歩する人たちが、周辺の歩専道で休憩したり、珈琲を飲みながらくつろげる場が創出されている



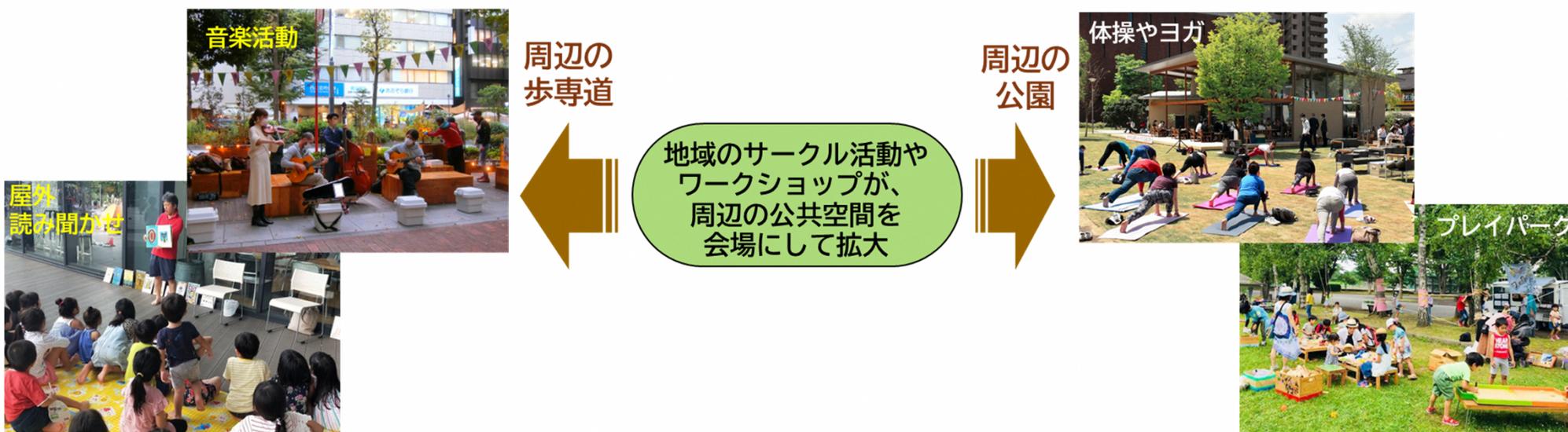
●周辺住民・事業者の得意分野を活かした商品の販売や作品展示の場が創出され、様々なチャレンジを後押ししている



●公園において、健康づくりや子ども達が楽しめる様々なコンテンツが、住民・事業者により提供されている



●地域のサークル活動やクラブ活動が、周辺の公共空間（歩専道、公園等）も会場として活用され、様々な活動が生み出されている



IV. シンポジウムの開催について

第12回シンポジウム 開催概要

テーマ:若い世代が活躍できる場をつくるまちづくり

- ・地域の魅力を活かした職住近接のような生活スタイルを望む若い世代が、住まいの近くで働き、地域で活躍できるような場をまちに増やすことで、高齢化の進む多摩NTが若い世代から居住地として選ばれ、多摩NTの活力維持にもつながります。
- ・「若い世代から一定程度割合で選ばれるまち」を目指すことで、まちの多様性や魅力の向上につながり、それが結果的に高齢者にとっても活躍の場が増えたり、暮らしを楽しめるまちにつながっていくことをテーマに、シンポジウムを開催しました。

概 要	
開 催 日 時	2025年2月16日(日) 14:00~16:45 (開場 13:30)
開 催 方 法	会場での対面開催+会場の様子を後日動画配信
場 所	ベルブ永山(5F ベルブホール)
テ ー マ	若い世代が活躍できる場をつくるまちづくり
基 調 講 演	武蔵野美術大学造形学部建築学科 教授 國廣 純子
当 日 参 加 者 数	42名